

令和4年度

邑南町水道事業会計決算審査意見書

邑南町監査委員

目 次

各会計歳入歳出決算審査意見

第 1	審査概要	1
	1. 審査の対象	
	2. 審査の期間	
	3. 審査の方法	
第 2	審査の結果	1
第 3	決算の状況	1
	1. 水道事業の経理	1
	2. 予算執行状況	2
	(1) 収益的収入及び支出 (税込)	2
	(2) 資本的収入及び支出 (税込)	2
	(3) 収支状況 (税抜)	3
	(4) その他の事項	4
	3. 業務状況	7
	(1) 給水状況	7
	(2) 建設改良事業の状況	7
	4. 財政状態について	8
第 4	審査意見	9

令和4年度水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和4年度邑南町水道事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び地方公営企業法施行令第23条に定めるその他の書類（キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書）

上記決算について作成すべき書類（決算報告書並びに損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書及び貸借対照表）

2 審査の期間

令和5年6月27日から7月24日まで（18日間）

現地踏査：令和5年7月3日（1日間）

3 審査の方法

この決算審査にあたっては、決算書類が地方公営企業法その他関係法令に準拠し、関係帳票及び証書類の計数と合致しているかを確かめるとともに、予算の執行及び事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかを主眼として実施した。

なお、本事業の経営については、その動向を把握するため、決算内容を分析し、職員の説明を求め、慎重に審査した。

第2 審査の結果

審査に付された決算書類は、関係法令に準拠して適正に作成され、関係帳票及び証書類との照合の結果、計数は正確であり、また、水道事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているものと認めた。

決算状況及び審査意見については、次のとおりである。

なお、意見書中の一部の表において、千円未満の端数処理に伴い集計額と誤差がある。

第3 決算の状況

1. 水道事業の経理

令和4年度邑南町水道事業の経理は、平成29年度から公営企業法の適用を受けており、経理はその企業活動を正確に把握するため、営業に係る活動を損益取引（収益的収支）と、営業活動以外における資本の増減を資本取引（資本的収支）として明確に区分する複式簿記を採用している。

2. 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出（税込）

収益的収入及び支出は、企業の経営活動に伴い発生する収益と、これに対する費用である。

令和4年度の収入にあたる水道事業収益は、予算額4億3,489万5千円に対し、決算額は4億3,911万6千円で、決算額比較は前年度より2,482万5千円（5.4%）の減収となっている。これは、営業外収益での他会計補助金の減が大きい。

支出にあたる水道事業費用は、予算額4億3,109万9千円に対し、決算額は、4億443万7千円で、決算額比較は前年度から3,324万1千円（7.6%）の減となっている。この要因は、減価償却費、企業債利息の減や職員の異動によって人件費が減少したことによるものである。

令和4年度の収益的収入及び支出の執行状況は次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令 和 4 年 度						
	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	予算額との 増減 (A)-(B)-(C)	執行率 (B) / (A)-(C)	決 算 構成比	備 考
水道事業収益	434,895	439,116		△4,221	101.0	100.0	
営業収益	214,814	220,403		△5,589	102.6	50.2	
営業外収益	220,081	218,713		1,368	99.4	49.8	
水道事業費用	431,099	404,437	3,300	23,362	94.5	100.0	
営業費用	381,741	363,312	3,300	15,129	96.0	89.8	
営業外費用	49,227	41,125	0	8,102	83.5	10.2	
予備費	131	0	0	131	0.0	0.0	

(2) 資本的収入及び支出(税込)

資本的収入及び支出は、将来にわたり経営の安定を図るための設備投資に係る収入と、これに対する費用である。

令和4年度における資本的収入は、予算額3億1,376万9千円に対し、決算額は3億4,428万5千円で、決算額比較は前年度より1億2,194万9千円(54.8%)の増収となっている。これは、企業債と工事負担金の増が大きい。

資本的支出は、予算額5億5,276万6千円に対し、決算額は5億2,095万6千円で、翌年度へ繰越した事業が2,502万1千円ある。決算額比較は前年度より1億2,303万6千円(30.9%)の増となっている。増加の内訳は、建設改良費が1億1,853万4千円、企業債償還金が450万2千円である。

この結果、資本的収入が資本的支出に対して不足する額1億7,667万1千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,101万2千円、過年度分損益勘定留保資金1億847万3千円、当年度分損益勘定留保資金5,718万6千円で補填されている。

令和4年度の資本的収入及び支出の執行状況は、次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令 和 4 年 度						
	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	予算額との 増減 (A)-(B)-(C)	執行率 (B) / (A)-(C)	決 算 構成比	備 考
資本的収入	313,769	344,285		△ 30,516	109.7	100.0	
企業債	134,500	172,700		△38,200	128.4	50.2	
国庫補助金	31,449	31,449		0	100.0	9.1	
他会計補助金	121,572	121,572		0	100.0	35.3	
工事負担金	26,248	18,564		7,684	70.7	5.4	
他資本的収入	0	0		0	0.0	0.0	
資本的支出	552,766	520,956	25,021	6,789	98.7	100.0	
建設改良費	269,094	237,285	25,021	6,788	97.2	45.5	
企業債償還金	283,672	283,671	0	1	100.0	54.5	

(3) 収支状況(税抜)

令和4年度における経営状況(税抜)は、総収益が4億1,906万6千円に対し、総費用が3億9,538万6千円で、ともに減少した。

当年度も営業損失を営業外収益が吸収したことで、前年度より経常利益は102万7千円減少したものの、当年度純利益は、2,368万円を計上し、今年度の未処分利益剰余金は前年度分を加えて4,838万7千円に増加した。

前年度と比較した損益の状況は次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令和4年度 (a)	令和3年度 (b)	前年との増減 (a)-(b)	伸率 (a)/(b)	備 考
営業収益 (A)	200,405	200,530	△125	99.9	
営業費用 (B)	356,528	374,762	△18,234	95.1	
営業損失 (C=A-B)	156,123	174,232	△18,109	89.6	
営業外収益 (D)	218,661	243,331	△24,670	89.9	
営業外費用 (E)	38,858	44,392	△5,534	87.5	
経常利益 (F=D-E+C)	23,680	24,707	△1,027	95.8	
特別利益 (G)	0	0	0	0	
総収益 (H=A+D+G)	419,066	443,861	△24,795	94.4	
総費用 (I=B+E)	395,386	419,154	△23,768	94.3	
純利益 (J=H-I)	23,680	24,707	△1,027	95.8	
前年度繰越剰余金 (K)	24,707	0	24,707	-	
当年度未処分利益剰余金 (J+K)	48,387	24,707	23,680	195.8	

(4) その他の事項

ア 企業債

令和4年度の企業債は、新たな借入が2件1億7,270万円(利率1.4%)、償還総額は2億8,367万1千円である。この結果、4年度末の状況は、平成6年度以降の借入分61件で、企業債残高25億3,075万4千円となっている。

(単位：千円)

区 分	令和4年度	令和3年度	備 考
当年度企業債借入高	172,700	66,400	
企業債発行総額	6,194,000	6,021,300	
当年度企業債償還高	283,671	279,169	
企業債償還高累計	3,663,246	3,379,575	
年度末企業債残高	2,530,754	2,641,725	

イ 一時借入金

該当なし

ウ 流用

該当なし

エ 他会計からの補助金

邑南町一般会計から収益的収入に1億5,601万9千円、資本的収入に1億2,157万2千円、合計2億7,759万1千円の補助金があり、それぞれ目的に沿って充当されている。

オ キャッシュ・フロー計算書

当期純利益を起点として、これに調整項目を加減算する事によって、純粋な現金の増減を表示するものである。業務活動によるキャッシュ・フローは2億3,690万7千円の増、投資活動によるキャッシュ・フローは5,468万8千円の減、財務活動によるキャッシュ・フローは1億1,097万1千円の減で、令和4年度の資金の増減は、7,124万8千円の増となった。

令和4年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

令和4年度邑南町水道事業キャッシュ・フロー計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益	23,680
減価償却費	231,129
資産減耗費	6,980
賞与等引当金の増減額 (△は減少)	△ 1,127
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 167
長期前受金戻入額	△ 61,724
受取利息及び受取配当金	0
支払利息	38,412
前払金の増減額 (△は増加)	△ 4,920
未収金の増減額 (△は増加)	△ 20,688
未払金の増減額 (△は減少)	63,710
預り金の増減額 (△は減少)	34
小計	275,319
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	△ 38,412
業務活動によるキャッシュ・フロー	236,907

2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	有形固定資産の取得による支出	△ 216,950
	国庫補助金による収入	28,594
	他会計からの繰入金による収入	116,792
	工事負担金による収入	16,876
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△54,688
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	172,700
	建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	
		△283,671
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△110,971
	資金増加額	71,248
	資金期首残高	149,825
	資金期末残高	221,073

カ 水道料金の収納状況

令和4年度水道料金の収入済額は、2億1,753万6千円で、前年度に比べ70万4千円（0.3%）減収となっており、収納率も90.7%と0.3ポイント下降している。

うち現年度の収入済額は、2億133万9千円で、収納率は92.2%と0.1ポイント、過年度（令和3年度以前）の収入済額は1,619万7千円で、収納率は75.6%と2.5ポイントいずれも下降している。

未収は、金額、件数ともに増加している。

令和4年度の水道料金の収納状況を前年度と比較すると、次表のとおりである。

（単位：千円・%）

年度	区分	調定額	収入済額	不納欠損額	未収額	収納率	未収の件数
4	現年度	218,390	201,339	0	17,051	92.2	4,397
	過年度	21,433	16,197	167	5,069	75.6	1,122
	計	239,823	217,536	167	22,120	90.7	5,519
3	現年度	218,547	201,715	0	16,832	92.3	4,343
	過年度	21,147	16,525	21	4,601	78.1	1,035
	計	239,694	218,240	21	21,433	91.0	5,378

キ 給水停止の措置状況
該当なし

3. 業務状況

(1) 給水状況

令和4年度の給水状況は、給水人口が前年度に比べ22人(0.3%)減の8,646人、給水戸数は、5戸(0.1%)増の4,150戸となっている。年間総配水量は前年度に比べ13,096m³(1.0%)減、年間総有収水量も690m³(0.1%)減とともに減少しているが、有収率は71.5%で0.7ポイント上昇した。給水収益が供給にかかった費用に占める料金回収率は59.5%と4.4ポイント上昇した。

給水状況を前年度と比較すると、次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令和4年度 (a)	令和3年度 (b)	増 減 (a) - (b)	伸 率 (a) / (b)	備 考
年度末給水人口 (人)	8,646	8,668	△22	99.7	
年度末給水戸数 (戸)	4,150	4,145	5	100.1	
年間総配水量 (m ³)	1,294,305	1,307,401	△13,096	99.0	
一日平均配水量 (m ³)	3,546	3,582	△36	99.0	
年間総有収水量 (m ³)	925,462	926,152	△690	99.9	
一日平均有収水量 (m ³)	2,536	2,537	△1	100.0	
有 収 率 (%)	71.5	70.8	0.7P	—	
給水原価 (円 / m ³)	360.54	389.66	△29.12	92.5	
供給単価 (円 / m ³)	214.55	214.55	0	100.0	
料金回収率 (%)	59.5	55.1	4.4P	—	

また、利用者の設備において、7種の管の口径別に見た構成比率は、最細管の13mmが最も多く、戸数で73.5%、有収水量で55.3%を占めている。

(2) 建設改良事業の状況

令和4年度の繰越事業を除く建設改良工事は、測量調査等の業務委託が7業務3,901万4千円、改良工事が22工事1億6,472万6千円、支障移転工事等が2件1,745万円であった。

完了した事業における業務委託は、布施地区、矢上地区、市木地区で、配水管布設測量調査業務、橋梁添架管測量設計業務、瑞穂地域の橋梁添架管台帳作成業務等、改良工事では布

施、市木、日和地区の配水管布設工事、町単独事業の上水道施設遠方監視装置の親局、子局整備工事、その他比較的小規模な施設整備、更新工事等である。

また、保存工事は3地域での量水器取り換え工事を合計403件、309万1千円で実施した。

なお、現地踏査を7月3日に実施し、日和地区の既存2水道の水源取水地や浄水池、配水池の現状調査、さらにこの2水道を1つに整備する計画の新水源ボーリング中の繰越工事を調査し、出来るだけ早期の完工を要請した。

4. 財政状態について

令和4年度の資産合計は、58億5,134万5千円で、前年度に比べ7,589万8千円(1.3%)増加している。固定資産は償却が増えたため2,112万5千円(0.4%)の減少、流動資産では現金が増えたことが大きく9,702万3千円(55.2%)の増加である。負債合計は、43億5,101万2千円で前年度に比べ5,221万9千円(1.2%)増加している。これは固定負債が企業債の減により減少したが、繰延収益の増と年度末工事が多く支払いが翌年度になった流動負債の未払金の増加が大きい。

資本金は、前年同額の14億5,128万5千円で、資本合計は、今年度の剰余金を加えて15億33万3千円となった。

前年度と比較した財政状態は、次表のとおりである。(※金額は税抜き)

(単位：千円・%)

区 分		令和4年度 (a)	令和3年度 (b)	増減 (a) - (b)	伸率 (a) / (b)	備 考
資産	固定資産	5,578,496	5,599,621	△21,125	99.6	
	流動資産	272,849	175,826	97,023	155.2	
	資産合計	5,851,345	5,775,447	75,898	101.3	
負債	固定負債	2,248,539	2,358,054	△109,515	95.4	
	流動負債	376,686	315,491	61,195	119.4	
	繰延収益	1,725,787	1,625,248	100,539	106.2	
	負債合計	4,351,012	4,298,793	52,219	101.2	
資本金	資本金合計	1,451,285	1,451,285	0	100.0	
剰余金	資本剰余金	662	662	0	100.0	
	利益剰余金	48,387	24,707	23,680	195.8	
	剰余金合計	49,049	25,369	23,680	193.3	
資本合計		1,500,333	1,476,654	23,680	101.6	
負債・資本合計		5,851,345	5,775,447	75,898	101.3	

第4 審査意見

令和4年度決算も前年度並みの当期純利益を計上した。

このことは、営業収支においては、費用の減少で前年度より減少したものの依然として営業損失は続くが、他会計補助金が多い営業外収益が営業損失を吸収したことで、当期純利益2,368万円を計上している。これに前年度からの繰越利益剰余金を加えて当年度未処分利益剰余金は4,838万7千円となっている。

一方、水道事業を取り巻く状況としては、中山間地域の厳しい条件下で、給水コストはさらに増加する傾向にあり、給水戸数、給水人口にも限界がある。資産に関する経営指標の、有形固定資産の老朽度合いをみる有形固定資産減価償却率や管路の状態を示す管路経年化率は悪化し更新が求められる状況である。

このような中でも、町民に安全で良質な水道水の安定的な供給は生活に直結しているため、コストの削減はもちろん、将来を展望した水道サービスの持続性の確保をめざし、より一層の計画的な施設整備、改修計画が必要であり、専門的業務に対応できる人材の確保、育成も望まれる。